

ヤマトハクチョウゴケ *Campylostelium brachycarpum* (Nog.) Z.Iwats., Tateishi et Tad.Suzuki

【評価理由】

本種は全国レベルでも絶滅危惧Ⅱ類に指定されている稀産種である。セン類研究者に注目され、最近になってその実体が明らかになり、学名の改正及び国内の分布も判明してきた。県内の産地にも限られており、形態的にも特徴のある種であるため、全国レベルでの評価に準じて評価種とする。

【形態】

日本で記録されたハクチョウゴケ属 (*Campylostelium*) の種には、本種の他にハクチョウゴケ (*C.saxicola*) があるが、共に全長 2mm 程度の微小種。蒴柄が長くて、湿ると白鳥の首の様に強く湾曲する。微小な種なので発見には細心の注意が必要。

【分布の概要】

【県内・国内の分布】

本種は最初野口彰博士が新変種として、秋田市から報告した。次の産地として高木 (1967) は愛知県岡崎市 (旧額田町) から報告し、以後岡崎市茅原沢、同市桑原町、新城市 (旧南設楽郡鳳来町) 門谷でも記録した。

また、岩月ら (1999) によって全国的な産地が発表され、その中に豊田市王滝溪谷が含まれている。豊田市では更に成田 (2005) により焙烙山 (標高 683.5m) 頂下の花崗岩上に生育が確認された。

【世界の分布】

北米東部 (テネシー州) にも知られる。

【生育地の環境／生態的特性】

県内の生育地は岡崎市 (旧額田町、茅原沢、桑原町) のいずれも神社や寺院の境内にある風化した花崗岩上で確認された。豊田市王滝溪谷では狭い谷間の花崗岩面で確認された。

【現在の生育状況／減少の要因】

県内の産地は神社、仏閣の境内、または景勝地で環境的には保全された地域が多い。また、採集の対象となることもないため、いずれも記録当時のままで残っているものと思われる。

【保全上の留意点】

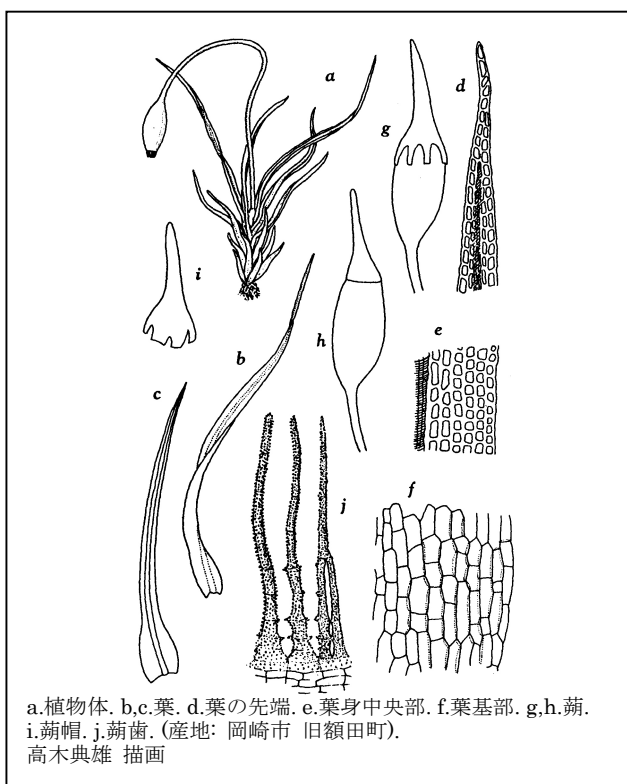
県内の産地は環境的には保全された地域が多く、生育地の環境に変化がないため、すぐに絶滅する心配はないものと思われる。しかし、同様な環境を有する場所は多いため、新しい産地の発見が望まれる。

【特記事項】

本種はハクチョウゴケの変種として命名されたが、最近の研究で蒴歯の構造等に相異が認められ、独立した種となった。これらの遺伝子レベルでの相異の有無、程度について興味を持たれる。

【引用文献】

- 高木典雄, 1967. ヤマトハクチョウゴケ愛知県に産す. 植物研究集録, 11: 11-13.  
岩月善之助・立石幸敏・鈴木直, 1999. 日本産ハクチョウゴケ属. ヒコビア, 13: 79-85.  
成田 務, 2005. 植物 5 藓苔類 (1) 藓類. 豊田市自然環境基礎調査報告書, pp.96-100. 豊田市.



県内分布図

